偕楽園公園における利用者の回遊行動からみたシークエンス景観

茨城大学　学生員　○武田　信二　茨城大学　正会員 小柳　武和
茨城大学　正会員　　志摩　邦雄　茨城大学　正会員　　岡本　朗

１．研究の背景と目的

公園緑地、森林、河川、湖などのオープンスペースは精神的にリフレッシュをもたらし、自然環境の美しさの演出、避難路の確保や延焼防止などの機能を持っている。現在、そのようなオープンスペースをネットワーク化し、その一体的な利用を促進させる流れが起こっている。茨城県と水戸市でも偕楽園（本園）及び千波湖周辺地域の公園緑地の一体的な利用を促進させようという動きがあるが、公園全体として広く知られ利用されるには至っていない状況である。一体的な利用を促すための重要な目標の１つに、人々がそのオープンスペースを快適に回遊できるかということが挙げられる。人々の回遊を促進させるには、目的地までの移動に楽しさを感じさせるような視覚作用的な演出（シークエンスの演出）が必要である。

そこで本研究では、偕楽園公園を調査対象とし、以下の３点を目的とする。

①　偕楽園公園における利用者の回遊行動を明らかにする。

②　偕楽園公園のシークエンス景観を構成する要素を抽出し、整理する。

③　①②の関連性から、今後の偕楽園公園における回遊行動を促すための提案を行う。

２．回遊行動調査

また、偕楽園公園の回遊行動を明らかにするため、ヒアリング調査を行った。回遊行動調査は回答者に、どこからスタートし、どのような道のりをたどってきたかを、偕楽園全体の地図にプロットしてもらった。その地図を用いて、遊歩道の交差点でルート分けを行い、そのルートを通った人数を調べることによって、偕楽園公園利用者の回遊行動を把握する。

２－１　全体での回遊行動

今回の調査の全体集計での回遊行動を図－１ に示す。よく回遊されているルートは、千波湖～光圀公像～偕楽橋～偕楽園（本園）東門と花追橋周辺～猩々梅林、田鶴鳴梅林の辺りである。少ないルートは桜山付近、四季の原、偕楽園（本園）西側である。

図－１　全体集計での回遊行動

２－２　調査地点別の回遊行動

調査地点周辺の回答者が主にどのようなルート回遊をしてきたかを表－１に示す。

Ａ地点の回答者の多くが、桜山駐車場３に車を止め、スタートし、目的地の多くは田鶴鳴橋、猩々梅林付近である。Ｂ地点の回答者の多くが、Ｄ51 付近の駐車場に車を止め、スタートし、目的地の多くは光圀公像、千波湖周辺である。これは、駐車場を出発点とした回遊行動で、桜山駐車場３とＤ51 付近の駐車場をスタートした回答者の回遊行動を集計したが、桜山駐車場３では田鶴鳴橋、猩々梅林付近を回遊し、Ｄ51 付近の駐車場では光圀公像、千波湖周辺を回遊するという同じ結果がみられた。

表－１　調査地点別の回遊行動集計結果

調査地点	回答者数	主な回遊ルート
Ａ．桜山・猩々梅林付近	18	田鶴鳴梅林、猩々梅林付近
Ｂ．千波湖	30	光圀公像周辺～偕楽橋
Ｃ．偕楽園（本園）	13	偕楽橋～偕楽園（本園）東門
Ｄ．偕楽橋	5	千波湖～偕楽園（本園）東門

２－３　回遊行動調査のまとめ

①Ｄ51 付近の駐車場に駐車した人、Ｂ地点の回答者の多くは、目的地が千波湖周辺でありその辺りを回遊する。千波湖周辺は回遊行動が多い。

②桜山駐車場３に駐車した人、Ａ地点の回答者の多くは、目的地が田鶴鳴、猩々梅林周辺であり、その辺りを回遊する。田鶴鳴、猩々梅林周辺は回遊行動が多い。

③Ｃ地点、Ｄ地点の回答者の主な回遊ルートは千波湖～偕楽園（本園）東門であり、千波湖と偕楽園（本園）の繋がりは強い。

④桜山は目的地であることがなく、田鶴鳴、猩々梅林周辺との繋がりは弱い。

３．シークエンス調査

３－１　シークエンス調査の概要

偕楽園公園のシークエンス景観を調査するため、ビデオカメラを用いて偕楽園公園の撮影を行った。

２－２より、偕楽園公園における利用者の回遊行動の傾向を明らかにした。偕楽園公園において回遊が多い場所が、千波湖、偕楽園（本園）、猩々梅林、田鶴鳴梅林である。しかし、桜山方面のような遊歩道が整備されているにもかかわらず、回遊の少ないルートが存在する。

そこで、今回の回遊行動調査で回遊が最も多くみられた千波湖と回遊の少なかった桜山、護国神社周辺の間の４ルートを選定し、調査を行った。

３－２　偕楽園公園景観構成要素の抽出

撮影したビデオより、シークエンスの変化があったと思われる地点で、その印象に残った景観構成要視界 180 度から見えるものを抽出した（図－2）。

キーワード：偕楽園公園、回遊行動、シークエンス景観
〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1　TEL：029-228-8111（8070）

図－2　選定ルートと景観構成要素抽出ポイント

３－３　偕楽園公園景観構成要素の移り変わり

表－２　ルートⅢの景観構成要素の移り変わり

景観構成要素	ルートⅢ												
	A3	B3	C3	D3	E3	F3	G3	H3	I3	J3	K3	L3	M3
住宅	■			■									
並木	■				■		■			■			■
森，台地	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
駐車場	■			■	■	■	■	■			■		
車道	■			■	■	■	■	■		■	■		
トイレ			■										
あずまや				■					■				
千波湖					■								
中心市街地					■								
桜山駐車場１脇の沼					■	■							
桜山新橋					■	■							
玉龍泉							■						
階段							■			■			
護国神社									■	■			
ベンチ										■			■
猩々橋										■	■		
護国神社鳥居										■			
沢渡川											■		■
好文亭											■		
丸山											■	■	
公園センター											■	■	
丸山橋												■	
猩々梅林												■	■
猩々梅林の広場													■
桜川													■
レイクサイドボール													■

図－３　ルートⅢの景観構成要素抽出ポイント

３－２においてルート毎に抽出した景観構成要素の移り変わりの分析を行った。

・ルートⅠ（千波湖～田鶴鳴梅林ルート）は全体的に多くの景観構成要素を見ることができ、特に窮窕橋を渡って花追橋に行くまでは、正面には好文亭が猩々梅林の梅の木に見え隠れしながら近づき、右手には月池と風の鼓動（モニュメント）が見え、遠方にはアートタワー水戸、田鶴鳴橋の背後から中心市街地が見え始めるなど、近景、遠景にもシークエンスの変化があるコースである。

・　ルートⅡ（田鶴鳴梅林～もみじ谷駐車場ルート）は護国神社前からもみじ谷辺りまでは、車道と森の単調な景観が続くが、もみじ谷で綺麗に整備された川やもみじ谷の水景施設が見え始め、単調であったシークエンス景観に変化を演出している。

・ルートⅣ（田鶴鳴梅林～千波湖ルート）は偕楽橋に上がると千波湖、桜川、中心市街地がよく眺望できるようになってくる。

・ルートⅢでは特にシークエンスの変化に富んだコースであるので詳しく説明していく。

ルートⅢの景観構成要素の抽出ポイントを図－３に、その移り変わりを表－２に示す。Ａ３地点のもみじ谷駐車場～Ｂ３地点の桜山入口では、森と遊歩道だけになっている。Ｂ３地点の桜山入口～Ｃ３地点の桜山トイレ地点においては、変化は見られないが、Ｃ３地点の桜山トイレ地点～Ｄ３桜山のあずまや地点では周囲の樹木が減少し、桜山駐車場１と住宅が確認でき、Ｄ３桜山のあずまや～Ｅ３桜山駐車場への下り坂地点では、さらに樹木が減少し、遠方に千波湖、中心市街地を眺望できるようになる。Ｆ３桜山駐車場～Ｇ３玉龍泉付近では、玉龍泉が見え、Ｉ３護国神社のあずまや付近～Ｊ３護国神社境内前では上り坂を上ると護国神社が見え、猩々橋付近を見下ろすことができる。Ｊ３護国神社境内前～Ｋ３桜山駐車場入口付近では、公園センター前への階段を下っていくと、丸山、好文亭が見えるようになる。景観構成要素の移り変わりが頻繁に起こり、シークエンスの変化に富んだ魅力的なコースといえる。

４．偕楽園公園における回遊行動への提案

４－１　回遊行動とシークエンスの関係性

３－３で４ルートの魅力を明らかにした。ルートⅠ（千波湖～田鶴鳴梅林ルート）では猩々梅林辺りで、ルートⅣ（田鶴鳴梅林～千波湖ルート）では偕楽橋付近でシークエンスの変化がみられる。その辺りは回遊行動も多く、その魅力あるシークエンスに促されて回遊している可能性があるといえるが、ルートⅡ（田鶴鳴梅林～もみじ谷駐車場ルート）、ルートⅢ（もみじ谷駐車場～猩々梅林ルート）でもルートⅠ、ルートⅣに劣らない魅力あるシークエンス景観があるにもかかわらず、回遊行動は少ない。

４－２　偕楽園公園における回遊行動への提案

シークエンスの変化に富んだ魅力的なルートであるルートⅡとルートⅢのある桜山周辺は、４－２の桜山駐車場３からの回遊行動、Ａ地点の回答者の回遊行動から、比較的距離が近い猩々梅林、田鶴鳴梅林とも連携がなされているとは言い難い。そこで、桜山への回遊を促すため、今後シークエンスの変化に富んだ魅力を生かした整備を目指すと共に、猩々、田鶴鳴梅林方面からの回遊性向上のための整備が必要になってくると考える。また、桜山と偕楽園（本園）の間には遊歩道が整備されておらず、その両方を繋ぐことによって回遊が促進されると考える。

５．結論

①偕楽園公園における回遊行動調査を行い、調査ポイント別、駐車場を出発点とした回遊行動別に分析し、回遊行動を明らかにした。

②偕楽園公園におけるシークエンス景観を構成する要素を抽出し、その移り変わりの分析を行い、魅力あるルートを明らかにした。

③回遊行動とシークエンスの関係性から偕楽園公園における回遊行動への提案を行った。

＜参考文献＞　１）長山秦久ら：「空間移動の心理学」、福村出版、1992
２）現代ランドスケープ研究会：「ランドスケープの新しい波」、メイプルプレス、1999